

第2回草津市幼保一体化検討委員会 議事概要

日時	平成25年5月27日(月) 午後3時30分から午後4時30分まで
場所	草津市役所 4階 行政委員会室
委員	西川委員長、福永副委員長、吉田委員、白井委員、大森委員、河井委員、東田委員、斎藤委員、田中(真)委員、田中(和)委員、野村委員、永元委員
事務局	山本子ども家庭部長、米岡健康福祉部理事、望月子ども家庭部副部長(総括)、田内子ども家庭部副部長(幼児担当)、田中幼児課長、重井幼児課参事、木村幼児課副参事、古川幼児課副参事、川那邊幼児課専門員、吉田幼児課専門員、森神幼児課専門員、畑学校教育課副参事 (運営支援) (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 小林、菅原
議事項目	(1) 認定こども園の視察を終えて (2) 施設アンケートについて
資料	資料1 認定こども園視察研修での質問項目 資料2 幼児教育と保育の一体的提供のための現況調査(施設アンケート)について

1. 開会

2. 議事

(1) 認定こども園の視察を終えて

- ・幼保一体化に伴う課題と解決に向けた取組み方策について

<委員長>

視察ということで、かねてから出ていたが、実際に視察して色々と見えてきたもの、わかったことや、更にわからなくなったこと、色々あるかもしれないが、そのあたりの意見交換を行いたい。今日視察していただいた委員の方々、ぜひ全員からご意見・ご感想いただきたい。

<A委員>

スムーズにいらっているという感想を持った。短時部が多くて、長時部が3分の1から4分の1くらいだったと思うが、特にお迎えの時間、交代の時間が見られて非常に有意義であった。条件にもよるとは思うが、短時間部の子どもが一斉に帰って、気持ちを切り替えて、残った時間を一つの区切りをもって長時間預かるやり方であれば、草津市でも条件を整えばスムーズにいけるのではないかと思った。

<委員長>

非常にスムーズに、子どもたちも生活を送っていたということ。まず口火を切っていただいたが、他の皆さんはいかがか。それぞれが気になっていた点が明らかになったとか、気付いたこととか、ご意見ご感想をお聞きしたい。

<B委員>

短時部の降園のときに色々起こるかなと思って見ていたが、とてもスムーズだった。帽子の色で分かれていて、長時部はちゃんと隣の部屋に移動していたのが印象的だった。先生もおっしゃっていた通り、4、5歳児はスムーズに移動できるということが実際に見てみてわかった。

<委員長>

実際に見て、流れが非常にスムーズだったという感想。

<C委員>

今日は行くことが出来て本当に良かった。保護者側からすると不安だらけ、というのは以前より言わせていただいていたが、案外子どもたちはその場に馴染むのが早く、先生方の御苦労もとても見え、子どもを一番に考えた保育を考えておられるのがわかってよかった。何より最後にお話ししていただいた先生が、苦労も多々あったが楽しむことが一番、というふうにおっしゃっていて、実際に楽しんで保育・教育に携わっておられるように見えた。教育や保育に携わる先生方をいかにうまく取り入れていくのかということが重要なポイントになってくると思う。

子ども中心で考えていただけるに越したことはないので、草津市も小津こども園のようなものを目指してほしい。草津市も多々細かい問題はあるかもしれないが、それをカバーできる位の質のいいこども園を目指していただきたい。保護者の方々ともうまくやって欲しいという願いが先生方の中にもあったし、長時部・短時部の保護者とが折り合いもつけていけるよう、お互いに理解できる場をつくろうという先生方の御苦労もわかったので、そのあたりも、参考にさせていただければと思う。

<委員長>

保育士の質を担保という点と、保護者との連携という点でご意見・ご感想をいただいた。

<D委員>

2点ほど、実際にお話を聞いたり見学させていただいたりする中で印象に残ったことがあった。1点目が小学校のグラウンドが近いということ。園長先生がおっしゃっていたが、小学校での体育の授業や避難訓練を子どもたちは自然な形で見て学んでいるということだ。そのような自然な連携が、草津市でもできると良いと思った。2点目は、長時部・短時部の保護者が懇談する機会をもっているということ。そこでの学び合いというのは、子育てにおいても大変貴重な機会

になると思う。その良さも今日は感じた。

<委員長>

小学校の連携を意識した点でのご意見と、保護者同士の学び合いという点でのご意見をいただいた。

< E 委員 >

今日質問させていただいた給食に関しては、人件費が一番かかっていると思う。どこでコストを下げるかといったら、食材しかないと感じている中、業務委託の場合、市がきちんと管理されているかというのは聞きたいところであった。委託であっても、子どもとの関わり合いがあること、市の栄養士が発注から献立選定までしておられるということだったので安心した。

また、保育所において、今までは16時には終わっていたものが段々と延長保育になり、今はすぐに帰る子どもと帰らない子どもがいるという状況になっている。その中で、生活のけじめや生活の切りというものを色々なところでしているが、そういう点で、今日、子どもがさよならの挨拶をした後は普通に遊び、また帰る子どもはリュックを背負い並んでいるという姿は、長い時間をかけてやってこられた成果なのだと思う。子どもにとって生活の実態に合った保育内容、流れをつくらなければいけないと改めて感じたので、また色々勉強をしていきたいと思った。

<委員長>

先生方のご助言やご指導によってスムーズに色々できていたということがわかったと。

< F 委員 >

苦勞して乗り越えられたからこそ見えてくる、子どもにとってのいい生活、先生たち同士のコミュニケーションが大切なのだなど、今日見せていただいて改めて思った。草津市でこども園になったときの1人当たりの面積をお聞きしたい。また、給食を食べる部屋とか、お昼寝をする部屋とか、そういう生活をする場を分けたことが、子どもたちの安定につながったということだったが、幼稚園の場合は改革をしなければいけないことがたくさんあると思う。その場合、補助は市からちゃんと頂けるのかということもお聞きしたい。

<委員長>

大変苦勞されたからこそ、見えてきたものがあるということだ。そして市の方へ、1人当たりの面積や生活スペースの確保というところについてお聞きしたいとのことだ。私は、検討委員会がそのあたりをよりよいものにしていくということで提言していく場だと思うのだが、市としては具体的な数字はあるのか。

< F 委員 >

例えば幼稚園がこども園にする場合、定員数を下げなければいけないという話を聞いている。

< 委員長 >

検討委員会で発信したらいいという風に私は考えている。そこでまたご意見を出していただければと思うが、そのあたりはどうなっているのか。

< 事務局 >

保育所にも幼稚園にもおそらく子ども 1 人当たりの面積基準がある。認定こども園も同様に、学級 1 人当たりの面積基準があったかと思うので、次回提示させて頂く。

< 委員長 >

設置基準のことではなく、草津市としてはどう考えているかというご質問だが。

< 事務局 >

現在そういうものは草津市にはない。

< 委員長 >

せつかくなので設置基準は次回にお願いしたい。そのあたりも含め、先ほどから出ている「子ども主体」ということで、こうあるべきだという発信が大切になってくるかと思う。

< G 委員 >

見学させていただいて、長時部・短時部が一緒になって集まって、遊んで、楽しそうだったのと、短時部の降園時も、きれいに長時部・短時部がすんなりと分けられていて、よかったと思った。

< 委員長 >

非常にスムーズに動いていた、ということだ。

< H 委員 >

施設そのものがゆったりとしていて広かった。度々起こる様々な課題を、ゆとりのある部屋があることで、色々な対応ができるということもあると思う。施設を新しくする場合は、ゆとり、という部分にもしっかりと着目しなければいけない。

5 歳児保育を参観していたが、短時部が降園する際の先生たちの連携がとてもよかった。担任の先生が降園指導で保護者に話をしている間に、フリーの先生が長時部を次の保育につなげていた。そういう連携が非常に大事だと思った。

保育の部分では、コアタイムを大事にされているということだったが、4、5時間の短時部と、7、8時間の長時部というふたつの部がある中で、どちらにおいてもしっかりと子どもたちを保育していかなければいけない。先生も言っていたが、短時部が帰ったあとの長時部の気持ちの切り替えが大変そうだ。コアタイムで行っていた遊びを長時部が続けたい気持ちがあるときなど、その興味を「はい、ここまで」と言って切り替えさせることは難しい。短時部が帰った後の保育の組み立て方をしっかりと話し合っていく必要があると感じた。生活の流れとして14時で区切るという気持ちの切り替えも必要であるが、例えば教材でコアタイムで使ったものは14時以降使わないのか、また夏休みの経験はどのように9月に活かしていくのかなど、そういうところももう少しお伺い出来れば良かった。

<委員長>

ゆったりと広い環境という部分での感想を持って頂いたのと、いわゆるコアタイムとのびっこタイムとの関連性や、いわゆる保育計画に関するご指摘だ。短時部でやっていたことを、長時部がそのままはじめてしまったら、職員と子どもたちの話し合いで解決しているということだった。確かに、もっと具体的な、教材や環境設定についてもお伺い出来ればよかったと思う。

< I 委員 >

親の立場として、他のこども園ではよく問題になっているといわれる長時部の子どもの心のケアについて気になっていたが、このこども園では先生方ではあるけれど、家族のように接するとか、そういった努力をされていて、それがしっかりとできているように感じた。まだ4年目なのに保護者からの意見も減っているようで、3年間の中で本当に御苦労があったのだと思う。4年目でそこまでできるのはすごいという風に思ったし、先生たちの研究会や会議も、なるべく早い時間に行うことで、先生の保育のカリキュラムを組む時間を減らさないようにという工夫がされているから、先生たちも子どもたちとの生活を楽しんでおられるのだということがよくわかった。

<委員長>

心のケアがしっかりとできていたということ、親御さんの理解が3～4年で得られたのは素晴らしいということ、そして、職員研修には工夫が見えたという3点のご意見をお伺いした。

< J 委員 >

私も、皆さんと同じように、短時部が帰る時の長時部のケアがスムーズであることや、職員室や給食室、部屋などが広々としていて、施設そのものが素晴らしいところが実際に見られて良かった。

ひとつ気になったのは、保護者の方の理解を得られたのは4年目だったということ。4年目になって、やっと親御さんも、認定子ども園に入れる、という意識で通わせることになるという

ことだったので、逆にいえば、当初は、自分は保育園に通わせているつもりだったのに急にこども園になってしまった、ということもあった、ということだろう。色々問題は発生するというのを考えると、やはり認定こども園に移行する際は、3年くらいの猶予があったほうが保護者の理解は得やすいと思う。意外と長時部が少なかったのも、もしかしたらどこかに流れてしまったのかもと思った。

<委員長>

3、4年で親の理解を得られた。しかし逆にいえば3、4年じっくりと丁寧に時間をかけていく必要もあるだろう、ということだ。

<副委員長>

良い印象を受けた。こども園というと、0歳から5歳の子どもたちがたくさんいて、短時部が帰るときに乳児はお昼寝をしている。職員たちは、慣れており、当たり前のことになっていると思うが、大きな動き・小さな動きを組み合わせ、頭の中で切り替えていて、その空間をしつかりとつかんでいる。そういう場所がこども園なのだと思えた。

<委員長>

色々な動きをひとつの園でうまく動かしているということです。

<副委員長>

保育園の場合はだいたい、夕方までそんなに大きな動きはない。しかしこども園となると、短時部の子たちが14時で帰っていくという、大きな動きがある。主観的ではあるが、職員たちは、横目で大きな動きを見ながら、しっかりと乳児の1日の生活リズムを守っているという印象を受けた。

<委員長>

時間も限られているので、ここで一度私の方で引き取らせて頂いて、ご意見・ご感想を、4点に大きくまとめたいと思う。

①皆さんが言葉に出さなくても、根底に流れているのは「子ども主体」ということだ。この視点は非常に大事で、生活する場がゆったりしていることなどの環境面、先生との関わり、子どもを主に考えていることの前提というところが、まず皆さんの意見で共通することだと思う。

ただ課題として、コアタイムとのびっこタイムの保育計画の関連性やそのあたりの具体的な保育をどのようにしているかということについては、子ども主体という部分で、考えていくべきだということだ。

②「保育者の資質能力」の部分でご意見・ご感想あったと思う。保育者の連携がスムーズであるか、担任が保護者に対して話をしているときに、中で子どもたちを見る先生はいるのか。苦

労があっても、その課題を克服しようと努力されていて、それを保障するような研修が工夫されていて、保育士の資質能力を高めていこうとする取り組みが見えているのかということ。

この①②に関しては多くの方々が印象を持っていたように思う。このふたつがうまく関連してスムーズな生活が可能になる。しかしそれは、長年の積み重ねと工夫によって可能になるということがわかった。

③保護者と職員との連携、保護者同士の学び合いが必要だということ。まずは3～4年かけて親にこども園について理解をしていただくこと、子育て支援の一環として学び合っていく会の持ち方、PTAの組織のありかたなどが挙げられていたと思う。

④小学校との連携。小学校のグラウンドに関して話が挙がっていたが、物理的に近いだけでなく、小学校とどのように連携していくかということも、検討の課題のひとつになりそう。

その他、業務委託の件についても、コスト・人件費を見ても、子ども主体というのを損なわないかが視点になると思う。

(2) 施設アンケートについて

<委員長>

2つ目の議事に入る。事務局から新制度の施設アンケート調査を実施したい旨の申し出があったので、それについて事務局から簡単に説明していただけるか。

<事務局>

・資料2に基づき、「幼保教育と保育の一体的な提供のための現況調査」について説明

<委員長>

保護者アンケートでとった内容と中間に盛り込まれた内容を更に明確にしていくために今度は施設側にもアンケートをとっていくということだ。ご意見ご感想あるか。なければ私からひとつ。公立にもアンケートを取るとおっしゃったが、その予定なのか。

<事務局>

公立にも、アンケートを取る予定だ。

<委員長>

どんなことを。例えば、「認定こども園への移行を考えたことがあるか」という質問はどうなるのか。公立は市ということになると思うが、それは市ではなく、施設長が個人的に考えたことがあるかという質問になるのか。

<事務局>

認定こども園への移行以外は、施設長が抱えておられる思いで答えてもらえると思うが、そ

の質問に関しては、なかなか公立の施設長には答えづらい部分があると思う。

<委員長>

答えられないと思う。

<事務局>

そういった部分に関しては次回出させて頂くまでにどういうふうにするか考える。おそらくここは、公立に関しては答えられないという形の整理になると思う。

<委員長>

アンケートは、公立も含めて全ての施設に配る、ということになるか。

<事務局>

はい。社会福祉法人においても、施設長が考えるのか、理事会での意見を述べてもらうのか、ということがよくある。意見が変わっても問題ないので、今の思いとしてご記入いただければと思う。

<委員長>

そういったことを、説明する必要があるかと思う。他に意見があれば、6月7日までに、事務局までお願いしたい。

3. その他

<委員長>

7月7日には草津市幼保一体化シンポジウムの内容について
当検討委員会においても事務局からアナウンスがあった。開催まで一か月と少しとなったのでその詳細もほぼ決定しているかと思う。プログラムの内容等について事務局から説明願いたい。

<事務局>

資料3「こども子育てシンポジウム―質の高い教育・保育の一体的提供に向けて」に基づいて説明

<委員長>

この委員会でも市民への周知広報啓蒙ということがかなり意見として出てきたため、実現したという経緯があり、この委員会のメンバーも何人か関わっている。開催の報告をふまえて何かご意見・ご質問はあるか。よろしいか。あれば事務局の方までご質問いただきたい。

本日の議事に関する検討はこれで終了する。
次回は7月22日14時から開催、場所は市役所4階の行政委員会室。シンポジウムが7月7日に開催される。当検討委員会とも密接に関連するので、可能な限り参加していただければと思う。
第4回検討委員会は9月12日14時から開催。

4. 閉会